



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



令和4年10月14日
京都市環境政策局
〔担当：地球温暖化対策室〕
電話：075-222-4555

京都発脱炭素ライフスタイルのビジョン等の策定について

京都市は、地球の平均気温の上昇を1.5℃以下に抑え、2050年の京都の姿として「将来の世代が夢を描ける豊かな京都」を実現するため、二酸化炭素（CO₂）を排出しない社会・経済活動への転換と併せて、脱炭素が生活の質の向上や豊かさにつながる、持続可能なライフスタイルへの転換を目指しています。

この度、将来の京都を担う若者を中心とする市民、事業者及び学識者等の皆様と共に発足した『京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～』での議論を踏まえ、2050年の脱炭素ライフスタイルのビジョン等を策定しましたので、お知らせします。

記

1 2050年脱炭素ライフスタイルのビジョン等の概要（詳細は別紙）

（1）趣旨

2050年の京都における脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会を同時に実現するため、市民が共有すべき指針として定めるもの

（2）ビジョン

京都の自然と共生する文化やしまつのこころを礎に
自分らしい持続可能な暮らしの選択で実現する
カーボンニュートラルで豊かな社会

（3）2030年までの目標及び指標

- ・1世帯当たりCO₂排出量 ▲39.1%（2020年度比）
- ・1世帯当たりエネルギー消費量 ▲25.8%（2020年度比）

（4）2030年までに市民が実践するアクションリスト

- ・服を長く大切に着る【消費行動】
- ・省エネ家電への買替、省エネ行動の徹底【住まい】
- ・スマートムーブ（公共交通機関・徒歩・自転車の活用）【つながり】など

（5）市民が自分ごととして脱炭素ライフスタイルを実践するための仕掛け（プロジェクト）

- ・使用済衣服の回収&循環プロジェクトなど

（6）キャッチコピー

ビジョンの実現に向けて、市民にライフスタイルの転換を呼びかけるための合言葉「DO YOU KYOTO?」を発展させた「DO YOU KYOTO? ^{ニゼロゴーゼロ}2050 変わろう、今。変えよう、未来。」とする



2 公式ホームページ「2050 MAGAZINE」の開設

市民がライフスタイルを転換するきっかけとなるよう、市内で起きている脱炭素に関する様々な情報を発信する公式サイト「2050 MAGAZINE」を開設します。

(1) 開設日

令和4年10月14日（金）

(2) 内容

- Concept（サイト全体のコンセプト）
- Stories（インタビュー記事）
 - ①小川雄次氏（小川珈琲㈱取締役経営企画室長）
 - ②岸田繁氏（くるり）×安居昭博氏（サーキュラーエコノミー研究家）の対談
 - ③横江一徳氏（大本山妙心寺 塔頭 養徳院 副住職）

※今後も脱炭素行動を実践する方々のインタビューを追加します。
- Projects（プロジェクトの紹介）
- News&Topics（参加可能なイベントの紹介等）
- People&Places（脱炭素行動を実践する人・団体・店舗等を紹介）
- Vision（京都発脱炭素ライフスタイルのビジョン等について）
- Action list（市民が実践する行動例の紹介）

(3) URL

<https://doyoukyoto2050.city.kyoto.lg.jp/>

2050 MAGAZINE 検索



インタビュー



ビジョン等の説明



アクションリスト

(参考) 2050 京創ミーティングの議論の経過

令和3年9月7日	第1回会議（2050年のライフスタイル像等について）
令和3年11月10日	第2回会議（2050年のライフスタイル像、2030年アクション案と目標・指標等）
令和4年1月～3月	テーマ別ワーキンググループ（WG）※会議 （消費行動WG、住まいWG、つながりWGを各2回開催）
令和4年5月24日	第3回会議（ワーキンググループ、市民ワークショップ、 2050年のビジョンとキャッチコピーについて）
令和4年7月14日	第4回会議（2050年の脱炭素ライフスタイルビジョン等の 共有、普及の方策、今後の活動について）

※テーマ別ワーキンググループ（WG）

2050 京創ミーティングの下に、「消費行動」「住まい」「つながり」の3つのテーマ別WGを結成。参画するメンバーがビジョン、目標・指標及びアクションリストに基づき、プロジェクトを議論。今後、具体化に向けた検討・実証を行う（一部先駆けて実施）。

2050京創ミーティングでの議論を踏まえ、①2050年の脱炭素ライフスタイルのビジョン、②2030年までの目標及び指標、2030年までに市民が実践するアクションリスト、③市民が実践しやすい仕掛け（プロジェクト）について、取りまとめを行った。

【現状】



2018年7月豪雨で増水した鴨川

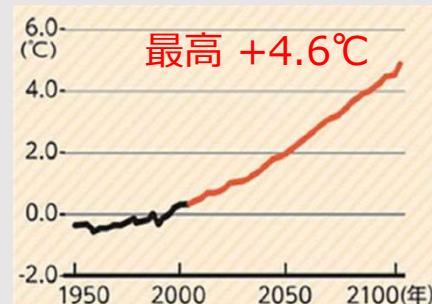


図1 1950～2100年の世界の平均気温変化

CO₂を中心とする温室効果ガスによる地球温暖化の影響で世界の平均気温は、100年間で0.75℃上がった。京都や世界でその影響が出ている。

温室効果ガスを減らす努力をしなければ、21世紀末までに、現在※から最高4.6℃上がる可能性がある。※2011～2020年の平均

京都と世界の豊かな暮らしを守るためには、2050年までにCO₂排出量正味ゼロの達成が必要

京都市長は、自治体の長として初の2050年までにCO₂排出量正味ゼロを表明

【課題】

家庭部門のエネルギー消費量が減っていない。

2020年度の京都市全体のエネルギー消費量は、ピーク時から31.1%減となる一方、家庭部門は、横ばい。

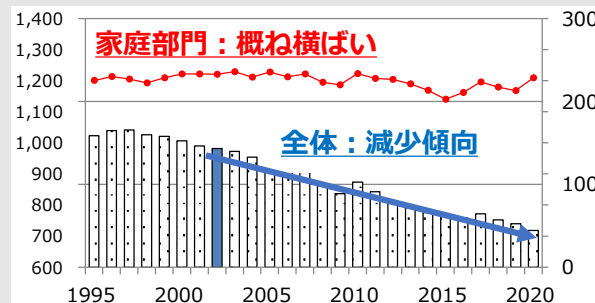


図2 京都市のエネルギー消費量の推移

【目指す社会像】

2050年の京都における脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会を同時に実現する

令和3年9月発足

「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」

市民、事業者及び学識者等で構成され、2050年脱炭素ライフスタイルのビジョン、2030年の目標及び指標、2030年までに市民が実践するアクションリスト等を議論



第1回会議

2050年の脱炭素ライフスタイル
ビジョン

2030年の
目標・指標

2030年の
アクションリスト

①消費行動

②住まい

③つながり

プロジェクト

推進
チーム

共有



提案、参画、
実践

テーマ別
WG

市民

京創ミーティング全体像

① 2050年脱炭素ライフスタイルのビジョン

京都には、1200年を超える悠久の歴史の中で培われてきた自然と共生する文化が息づき、また、京都人が得意とする、本物を見抜く「めきき」、ものづくりの精緻な技巧「たくみ」、研ぎ澄ましの本質に迫る「きわめ」、進取の精神「こころみ」、来訪者を温かく迎える「もてなし」、もったいないの「しまつ」の精神が受け継がれてきた。

これら京都の強みを生かして、京都議定書誕生の地でありパリ協定の実行を支えるIPCC京都ガイドライン採択の地としての誇りと使命感を持ち、世界に率先して気候危機に挑戦する京都市民の指針として、2050年のライフスタイルビジョンを定める。

京都の自然と共生する文化やしまつのこころを礎に 自分らしい持続可能な暮らしの選択で実現する カーボンニュートラルで豊かな社会

結う暮らし

自然に感謝し、地域や世代間でつながることで安心と豊かさがある暮らし

◆関係人口

都市部と山間部との行き来が、地域の元気にもつながる暮らし

◆地域活性化

おかげさまの精神を礎に、地域課題×環境課題を共有して解決

◆教育

地域や多様な世代が学び合える暮らし

◆イノベーションの担い手

環境課題解決型ビジネスに取り組む企業や担い手が活躍する社会

◆地域循環

ヒト・モノ・カネ・エネルギーが循環する地域経済モデルの構築

◆自然との共生

伝統文化とともに、地域の自然や豊かな恵みを守り、楽しむ暮らし



スマートな暮らし

テクノロジーと京都の知恵に支えられた高効率で快適な暮らし

◆技術

進取の気風を礎に、新たな技術を活かした、健康で快適なカーボンニュートラルな暮らし

◆京都の知恵

自然と共生する知恵や文化、伝統で彩る暮らし

◆木の文化

木と土から伝わる温もりを感じ、京都の森を守り育てる住まい

ていねいな暮らし

必要で長く使える「ほんまもん」を愛し、モノのストーリーを大切にする、心地よい暮らし

◆顔の見える消費

作り手と使い手がつながり、人も地域も豊かにする消費

◆食の文化

京野菜をはじめ、旬の食材を利用した健康的な京の食文化

◆京都の精神

「もったいない」「しまつのこころ」の精神が息づく、サーキュラーエコノミー※で、モノを大切にする暮らし

◆サステナブルな消費

再生可能資源やシェアリングなど、環境負荷が小さいものやサービスが当たり前

※資源投入量・消費量を抑えつつ、既存資源を有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動

② 2030年までの目標及び指標、アクションリスト

【2030年までの目標及び指標】

(1) 1世帯当たりCO₂排出量

▲39.1%(2020年度比)

(2) 1世帯当たりエネルギー消費量

▲25.8%(2020年度比)

【アクションリスト】

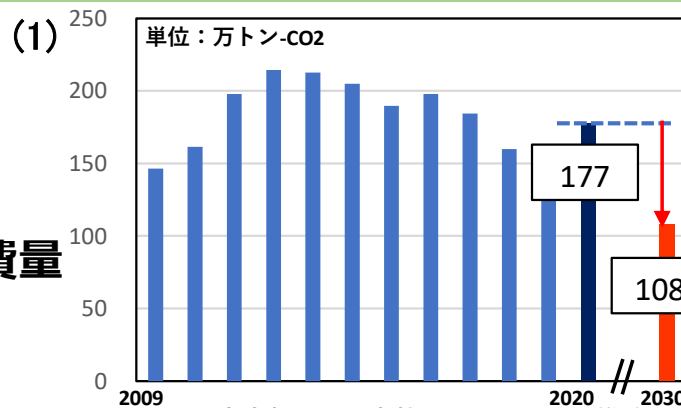


図1. 家庭部門の温室効果ガス排出量の推移

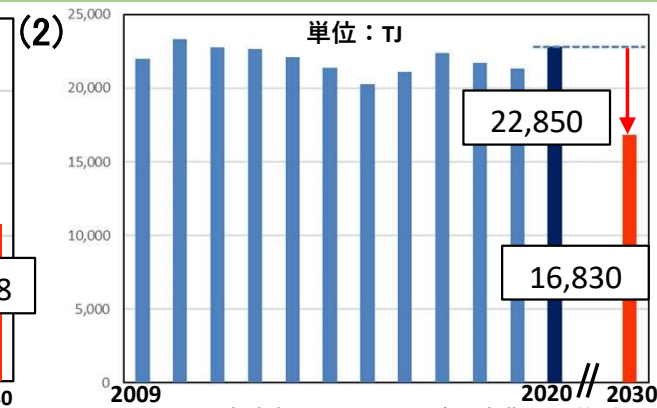


図2. 家庭部門のエネルギー消費量の推移

消費行動

衣

- ◆シェアリングサービスの利用
- ◆古着の利用
- ◆バイオマス・リサイクル・リユース素材の選択
- ◆長く大切に着る
- ◆修理して使う
- ◆フリーマーケット・リユースショップの利用
- ◆古着の資源回収
- ◆繊維のリサイクル

食

- ◆家庭菜園・市民農園の利用
- ◆代替肉・菜食・精進料理の購入
- ◆販売期限間近の商品を購入
- ◆旬の食材・地元食材の購入
- ◆食べ残さない
- ◆余った食材を活用する
- ◆食べ残し料理の持ち帰り
- ◆フードドライブ・フードバンクの利用
- ◆食品のリサイクル
- ◆野菜くず等を堆肥化・回収

その他

- ◆保有から利用(シェアリングサービス)
- ◆量り売りの利用
- ◆ペーパーレス化
- ◆プラではなく木などバイオマス素材選択
- ◆マイバッグ・ボトル・ストローの携行
- ◆ワンウェイプラを使わない
- ◆日用品を長く利用する
- ◆修理して使う
- ◆フリーマーケット・リユースショップの利用
- ◆プラ・廃油のリサイクル
- ◆廃棄物のアップサイクル製品創出

全体

- ◆環境配慮商品の購入
- ◆必要な量だけ購入
- ◆素材や生産ルート等、モノの物語・足跡を知る
- ◆宅配を1回で受け取る

住まい

住居

- ◆ZEH物件の選択
- ◆環境配慮マンション・シェアハウスの選択
- ◆市内産木材の利用
- ◆省エネリフォーム(環境性能向上)
- ◆太陽光パネル・蓄電池の導入
- ◆家、家具、家電等を修理しながら長く使う
- ◆省エネ・再エネ物件の選択

住まい方

- ◆省エネ家電への買換、省エネ行動の徹底
- ◆再エネ電気への切替・使用
- ◆LED使用量の見える化
- ◆EVを電池として活用
- ◆自然で暮らしやすい工夫
- ◆植物を育てる
- ◆暮らしに木を取り入れる
- ◆家具や家電のPaaSの利用
- ◆修理できなくなった家電等の回収
- ◆クールビズ・ウォームビズ

つながり

つながり・生活文化

- ◆スマートムーブ(公共交通機関・徒歩・自転車の活用)
- ◆シェアリングサービス(車・自転車)の利用
- ◆エコカー(EV・FCV)の活用
- ◆エコドライブ・ライドシェア
- ◆自然豊かな郊外でのワーケーションの実施
- ◆テレワークの実施
- ◆地域で電力を融通する
- ◆コミュニティでエコ活動
- ◆地域や世代間での環境教育の実践
- ◆地域で資源が循環
 - ・地域のお店で購入・修理
 - ・消費者と事業者の顔の見える関係
- ◆地域の自然を楽しむ
 - ・レジャー、サイクリング
- ◆植林・間伐に参加する
- ◆地域の緑や自然、森川の恵みを大切に・生物多様性の保全

③ プロジェクト

【テーマ別ワーキンググループ（テーマ別WG）】

京創ミーティングの下に、「消費行動」「住まい」「つながり」の3つのテーマ別WGを結成。参画するメンバーがビジョン、目標・指標及びアクションリストに基づき、市民がライフスタイルをよりCO₂の排出が少ないものに転換していくための仕掛け（プロジェクト）を議論。今後、具体化に向けた検討・実証を行う（一部先駆けて実施）。

※京都市の委託事業ではなく、ビジネスとして採算をとりながら持続可能な形で運営できるものを目指す。

【プロジェクト】

消費行動		すまい	つながり
1	使用済衣服の回収&循環プロジェクト	1 つながりを感じられる住まいづくり（京都の冬は寒くないプロジェクト）	1 京都脱炭素ツーリズムのHUB創設
2	四条通をサステナブルのシンボルへ	2 賃貸マンションの再エネ電気切替促進	2 環境配慮型農業の実践
3	里山や地域循環について知る機会の創出	3 実証実験によるデータ収集・分析と発信	3 地域での生ごみ堆肥の活用推進
4	レスキュー野菜の地域での販売	4 省エネ家電購入促進に向けたナッジの活用	4 脱炭素アンバサダー制度
5	アートやデザインを活用したアップサイクルの実施	5 住宅の省エネ・再エネ分を取引できる仕組み	5 サーキュラーエコノミービジネス人材の育成プログラム
6	脱炭素チャレンジ	6 賃貸住宅紹介時の省エネ性能の見える化	6 土中環境の改善
7	菜食対応のメニューを提供する店舗の見える化	7 断熱性能の良い家の体験の場づくり	7 ていねいな暮らしを学べる学校
8	エコポイント制度の導入	8 中古家電・家具2Rプラットフォーム	8 歩くデジタルスタンプラリー
		9 情報共有のHUBづくり	9 規格外野菜の販売

【既に開始しているプロジェクト】

使用済衣服の回収&循環プロジェクト

使用済衣服を回収し、地域内で循環させるプラットフォームの創出を目指し、スタートイベントとして、7月30日に「循環フェス」を開催！



地域での生ごみ堆肥の活用推進

家庭の生ごみ堆肥を市内拠点で回収し、地域の農家等で活用する地域循環の「ごみカフェkyoto」モデルの拡充に向け、7月23日に大宮交通公園で堆肥回収イベントを開催！



京都発脱炭素ライフスタイルの普及拡大に向けて

ビジョンの実現に向けて、市民にライフスタイルの転換を呼びかけるキャッチコピーを設定するとともに、今後、情報発信、プロジェクトの創出・実証、主体的な関りの誘発に関する施策を実施していく。

【キャッチコピー】

DO YOU KYOTO? 2050
変わろう、今。変えよう、未来。



【施策】

(1) 情報発信

構築したビジョン等について、公式ウェブサイトの開設、ポスター・パンフレットを活用した情報発信を行うことで、広く市民に広がるよう、普及啓発を推進する。

◆スケジュール	令和4年10月14日	公式ウェブサイト公開
	令和4年11月1日～15日	市政広報板にポスター掲載
	令和5年3月下旬	パンフレットを作製、公共・民間の施設等で配架

(2) プロジェクトの創出・実証

テーマ別WGにおいて、プロジェクトを創出し、実証支援を行う。
プロジェクトの効果を検証し、成果を多様な媒体を用いて発信する。

(3) 主体的な関りの誘発

市民を対象とするワークショップや、市民自らがライターとなり脱炭素ライフスタイルに資する取組を発信する市民ライター育成プログラムを通じて、市民の脱炭素ライフスタイルへの意識変革を促すとともに、主体的な関わりを誘発していく。



これらの取組を通じて、市民が自分ごととして、未来のために何ができるかを考え、新しいライフスタイルを実践する動きが、市民運動的に広がることを目指す。

【参考】

2050京創ミーティング推進チームメンバー

一ノ瀬 メイ	水泳パラリンピアン
一原 雅子	地球温暖化対策推進委員会 前委員(市民公募委員)
岩崎 達也	MAGASINN KYOTO オーナー
大木 和典	mui Lab(株) 代表取締役
太田 航平	(特非)地域環境デザイン研究所ecotone 代表理事
木原 浩貴	京都府地球温暖化防止活動センター 副センター長
近藤 令子	Voice4u(株) 前取締役 (現プロコーチ)
笹岡 隆甫	華道「未生流笹岡」家元、 DO YOU KYOTO? ネットワーク世話人
鈴木 靖文	(有)ひのでやエコライフ研究所 代表取締役
中馬 一登	(株)MIYACO 代表取締役
津田 郁太	QUESTION 前副館長 (京都信用金庫 北野支店 支店長)
寺島 美羽	Fridays For Future Kyoto 代表
中嶋 直己	(株)中嶋農園 4代目
中村 多伽	(株)taliki代表取締役
新川 達郎	(公財)京都市環境保全活動推進協会 理事長、 同志社大学名誉教授
野村 恭彦	Slow Innovation(株) 代表取締役
深尾 昌峰	龍谷大学副学長・政策学部教授、 (一社) ソーシャル企業認証機構 代表
前田 展広	前田展広事務所 代表(京都市ソーシャルイノベーション研究所 イノベーション コーディネーター)
松添 みつこ	ディアンドデパートメント(株) 代表取締役社長
松本 直人	フューチャーベンチャーキャピタル(株) 前代表取締役社長
横江 一徳	大本山妙心寺塔頭 養徳院 副住職
吉野 章	京都大学大学院 地球環境学堂 地球益学廊 准教授

テーマ別WGメンバー (●推進チームメンバー)

消費行動	
●岩崎 達也	MAGASINN KYOTO オーナー
岩崎 仁志	(株)ヒューマンフォーラム 代表取締役社長
堤 卓也	(株)堤浅吉漆店 専務取締役
野村 宏美	パタゴニア京都
●前田 展広	前田展広事務所 代表(京都市ソーシャルイノベーション研究所 イノベーション コーディネーター)
松本 健太	(株)大丸松坂屋百貨店 大丸京都店
本山 喜之	(株)ビオスタイル
住まい	
●大木 和典	mui Lab(株) 代表取締役
●鈴木 靖文	(有)ひのでやエコライフ研究所代表取締役
丸屋 亮介	(株)ジェイ・エス・ビー 営業推進本部 副本部長
吉田 創一	(株)フラットエージェンシー 代表取締役
つながり	
●太田 航平	(特非)地域環境デザイン研究所ecotone 代表理事
十塚 悠	(合)洛北社中 代表 大宮交通公園 管理人
●中嶋 直己	(株)中嶋農園 4代目
中田 俊	(株)夢びと 代表取締役
●野村 恭彦	Slow Innovation(株) 代表取締役
東 信史	(責)まちとしごと総合研究所 代表